



新型コロナウイルス感染者数

(6月20日現在)

問合せ先 健康推進課 ☎072-433-7000

●国内の新型コロナウイルス感染者数

日本では、これまでに784,000人が、新型コロナウイルス感染症と診断されており、これは全人口の約0.62%に相当します。
※感染していても症状が現れず、医療機関を受診しない人などがいるため、必ずしも感染した人すべてを表す人数ではありません。

●大阪府の新型コロナウイルス感染者数

感染症患者数：累計102,440人

●貝塚市の新型コロナウイルス感染者数月別状況

年	令和2年											令和3年					
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
感染者数 (人)	月別	1	6	1	0	8	54	15	12	41	59	80	7	43	182	108	3
	累計	1	7	8	8	16	70	85	97	138	197	277	284	327	509	617	620

※令和2年8月は、病院クラスター発生による大幅増加

※令和3年6月分は、6月20日現在の感染者数

新型コロナウイルス感染防止 「新しい生活様式」における 熱中症予防行動のポイント



●夏期の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。このため、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、熱中症のリスクを考慮し、マスクをはずすようにしましょう。

●マスクを着用しているときには、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくても、こまめな水分補給を心掛けるようにしましょう。また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、適宜、マスクをはずして休憩することも必要です。

●新型コロナウイルス感染を予防するためには、冷房時でも換気扇や窓の開放によって、換気を行う必要があります。この場合、室内温度が高くなるので、熱中症予防のためにエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。

●日頃の体温測定や健康チェックは、新型コロナウイルス感染症だけでなく、熱中症を予防するうえでも有効です。体調が悪いと感じた時は、無理をせずに自宅で静養するようにしましょう。

●3密(密閉・密集・密接)を避けつつも、熱中症になりやすい高齢者・子ども・障害者への目配り、声掛けをするようにしましょう。

問合せ先 健康推進課 ☎072-433-7000

離乳食講習会

3・7・0000
70000
0072
4・3
3健康

申し込み先 ☎072-433-7000

参加費 2000円

対象者 生後5ヶ月～8ヶ月児(対象児のみ参加可)

会場 保健・福祉合同庁舎

日時 7月30日(金) 午後1時30分～3時30分

内容 離乳食の体験保育もありましたので、安心して受講していただきます。

保育士・看護師による離乳食の体験保育もありましたので、安心して受講していただきます。

口唇ヘルペス

昔から「熱の花」と言われ、熱が出たときや風邪をひいたときに唇やその周辺に痛がゆい水膨れができて、その後しばらくするとかさぶたになる疾患です。

紫外線に長時間当たったり、ストレスや疲労で免疫力が低下してくると発病してくることがあります。痛みやかゆみの程度もそれぞれで、数年に一度出てくる人や毎月出てくる人もいます。

原因は「単純ヘルペスウイルス」によるもので、ヘルペス性口内炎や性器ヘルペスもこれによるものです。感染源は単純ヘルペスの水泡や唾液によるものが多いので、家族とタオルやコップを共用することは避けねばなりません。口唇ヘルペスのあるお母さんが、自分が使用したスプーンなどで赤ちゃんに食べ物などをあげると感染の大きな原因になります。

一度感染すると神経に潜伏し、免疫力が低下すると症状が出現することが繰り返されます。治療は内服薬や外用剤ですが、ウイルスを死滅させるのではなく増殖を抑えるものなので、なるべく早い段階で使用するほうが効果があります。

問合せ先 貝塚市医師会 ☎072-423-4130

健康都市宣言

私たちの願いは、お互いに支えあいながら、生涯にわたり健康で生き生きと幸せに暮らすことです。

そのために、「自分の健康は自分で作り自分で守ること」を基本とし、市民がともに助けあい、民間と行政が連携しながら健康づくり・体力づくりを進めていきます。

ここに貝塚市を「健康都市」とすることを宣言します。

- 一. 私たちは、自らの健康状態を知り、笑顔を大切に元気あふれる生活をめざします。
- 一. 私たちは、自然の恵みと食に感謝し、日々の運動と規則正しい生活に努めます。
- 一. 私たちは、豊かな自然を守り育て、住みよい健康的なまちをきずきます。

(平成25年5月1日制定)

ほっ スピタル・かいづか

問合せ先 貝塚病院 ☎072-422-5865

(50) 膵癌の2次治療に新たな抗癌剤が加わりました

～ナノリポソーム型イリノテカン:オニバイド™、分子標的薬オラパリブ:リムパーザ™が登場～

膵癌は4番目に死亡数の多い癌腫であり(2018年)、5年生存率は10%未満と予後不良な疾患です。膵癌の治療薬は2001年に塩酸ゲムシタピン(GEM)が保険適用されて以来、年々進歩を遂げてきましたが、他の癌疾患に比べて治療薬が少なく厳しい状況が続いていました。その状況下で昨年2つの新薬が膵癌2次治療に新たに加わり、難治性とされる膵癌患者さんにとって有効な選択肢が増えたこととなります。

オニバイド™は、GEM治療後の患者さんを想定して開発され、有効成分であるイリノテカンをリポソームのナノ粒子に封入して腫瘍微小環境への薬物伝達性を向上させた抗悪性腫瘍剤です。リムパーザ™は、バイオマーカー(BRCA遺伝

子変異)により選定された転移性膵癌患者さんに対する分子標的薬です。両者ともに海外第Ⅲ相臨床試験で有効性と安全性が確認され膵癌に対して昨年国内で承認・発売となりました。

当院ではこれらの新規2薬剤をはじめガイドラインに沿って膵癌治療を実践しており患者さん一人ひとりに応じて適切な治療をチーム医療として提供しています。

膵癌診療に関して何かありましたら気軽に市立貝塚病院外科、消化器・肝臓センターへご相談ください。

外科主任部長・低侵襲外科手術センター長 金 鏞国